

<金標準、FOMC で利下げ織り込めば目先出尽くし相場へ・・・>



(出所：オアシス)

先週のインフレ指標である消費者物価指数（CPI）、生産者物価指数（PPI）は事前予想を上回るなど「最後の 1 マイル」を超える難しさを物語っており、今年の利下げ確率は高いものの、FRB 当局者が示す年内 3 回の利下げが示されるのか今週 20 日の FOMC におけるドットチャートに注目が集まると思われる。特に NY 金は利下げ観測に、根強いインフレを受け 2200 ドルを試すなど高値で推移している。またワールド・ゴールド・カウンシル(WGC)は、最新の「金需要動向レポート」で世界経済の不確実性とインフレ率の上昇を背景に、店頭需要を含む金の総需要が 2023 年に過去最高の 4899 トンに達し、年間平均金価格の 1940.54 ドル/オンスを支えていると述べている。

特に円建て価格の金標準先物は、インフレ高を受けたドル高・円安の恩恵も重なり、週末には史上最高値を更新し 10385 円まで上昇している。ただ高値警戒ムードも強く 10300 円以上では利食いも出始めており、調整安に備える方が無難と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り下げながら、**シグナル**は切り上げており、**MACD** と **シグナル**の乖離が縮小している。RCI は**短期**が切り上げ、**長期**は切り上げているが**短期**が**長期**を上回るのが難しく思え、突発的な調整安に注意が必要と考える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 3 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 3 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>